

令和5年度岡山医療専門職大学事業報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

I 事業の概要

1) ビジョンと目標の達成度について

岡山医療専門職大学（以下、本学）は健康科学部理学療法学科、作業療法学科2学科を設置する専門職大学として令和2年4月1日に開学した。令和5年度を到達点とするビジョンと、そのビジョンを達成するために令和2年～5年度の4ヶ年計画を定めているが、本年度はその4年目となった。開学時に定めたビジョンと目標は以下のとおりである。

【岡山医療専門職大学 学年進行期におけるビジョンと目標】

<ビジョン>

大学としての基盤を確立し、ワンランク上の人材を育成し、学生が学生を呼び、地域社会から評価され尊敬される大学に成長し、中国地方唯一の専門職大学の責務を果たす。

<目標>

- ・質を伴う学生を安定的に確保する。
- ・専門職大学としての教育の水準と実績を担保する。
- ・「実践の理論」を重視した研究活動を推進する。
- ・教員の資質と力量の向上に努める。
- ・地域間及び大学間連携を推進する。
- ・大学としての品格を深める。

令和5年度は、前記目標の4年目の達成度について検証する。

まず「質を伴う学生の安定的な確保」については、令和5年度入学定員充足率（以下、充足率）は理学療法学科が66.3%、作業療法学科が27.5%であったが、令和5年度に行われた令和6年度の充足率については、前者が42.5%、後者が33.3%（定員40名から30名に変更）となり、いずれも入学者数は減少した。減少の要因としては、オープンキャンパスへの参加者の減少、参加者が本学への志望に結び付いていないこと、学校推薦型選抜指定校制推薦の減少等が明らかになっていることから、これらの要因を検証し、それらへの対策を重点的に行っていく必要がある。さらに他の要因も分析抽出して、次年度の充足率の確保に向けて対応をとりたい。一方、次年度に向けての新たな対策として、作業療法学科の充足率がこれまで一貫して大幅に低いことから、令和6年度入学者から、その定員を40名から30名に減員した。また、競合大学の学費の値下げにより、本学の学費が相対的に割高感を持たれるようになったことから、令和6年度から大幅な値下げに踏み切ることになったので、この面からも充足率の向上に期待がもてる。

2つ目の「教育の水準と実績の担保」については、専門職大学の特徴である「理論と実践を架橋した教育」の実践を本学の教育の柱とし、それを目指した教育を図ってきた。教員においては、この本学の教育に対する考え方が浸透してきており、令和5年度の学生授業評価アンケートでは、前期では、理学療法学科5.3、作業療法学科5.2、後期では、前者が5.2、後者が5.1と高い評価を得ている（いずれも6点満点）。このような結果から、学内における教育の質は担保されていると考えられる。そしてこの結果は、全ての臨地実務実習がそろった令和5年度においては、各々の実務教育の中で活かされ、理論に裏打ち

された実習が実践されたと言える。さらに、令和6年度以後の実務教育の中でも、同様に活かされてくることが期待される。

また、国家試験の合格率（後述）の観点からも、専門職大学としての教育の質と実績は担保されたと考えられる。

3つ目の「研究活動」については、各教員は「実践の理論」に重きを置いた研究に取り組んできた。令和4年度の学術業績については、和文著書2編、英文論文15編、和文論文17編、学会発表は国内38件、国際8件であった。本学の研究活動は、ほぼ全てが臨床研究であることから、令和4年度においても、コロナ禍による研究への影響は、なお避けられなかったと思われるが、このような環境下では、十分な成果ではなかったかと思われる。

また、令和5年度においても、昨年度に続いて、健康科学部作業療法学科3年生の2名が2023年10月11日～10月14日にオーストラリア・サンシャインコーストで開催されたオーストラリアスポーツ医学会議（Sports Medicine Australia Annual Meeting）に参加し、ポスターセッションで研究発表を行った。学生でありながら国際学会で発表したことは大きな成果であり、世界へ向けての視野が開けたと思われ、今後の活躍が期待される。令和5年度の外部資金獲得は、科研費の採択は若手研究1件であり、他の外部資金の獲得は1件であった。

なお、令和5年度の各教員の学術業績については、現在集計中であり、令和6年9月1日発刊予定の「岡山医療専門職大学年報2023（令和5）年度」にて詳細を公表する。

4つ目の「教員の資質と力量の向上」については、学外講師によるFD活動に加えて、定期的に教員全員が集まってFD活動の一環としての勉強会を開催し、各教員の教育に対する姿勢や考え方、実践方法等や研究に関する知識や情報を発表し、教員の資質と力量の向上に努め、教育の水準と実績の担保を図るべく努力した。令和5年度においては、臨地実務実習が本格化してきたことを受け、全教員の参加が困難な事態となってきたため、それまで原則として毎週開催してきた勉強会を必要時の開催としたが、各教員の講演内容の質的向上が図られており、成果は十分に担保されていると判断される。

5つ目の「地域間及び大学間連携」に関しては、開学と同時に「大学コンソーシアム岡山」に加盟し、毎年、各種会議やイベントに参加してきた。令和5年度も、2回開催された代表者会議に出席し、各大学との意見交換を行った。大学コンソーシアム岡山が主催する各種会議やイベントへの参加により、大学間および地域との連携を図った。本コンソーシアムが主催する市民向けの公開講座「吉備創生カレッジ」には前後期に各1回講師を派遣し、各講師の専門領域の市民への啓蒙を図った。さらに令和2年度に発足した全国の専門職大学で組織される「専門職大学コンソーシアム」には当初から参加しているが、令和5年度も参加（Web会議）して意見発表を行い、専門職大学間の連携を図った。また、全国の専門職大学が、設置後4～5年が経過したことを受け、専門職大学の現状について、本コンソーシアムの会長をはじめとする理事長・学長が、令和6年2月15日に文部科学省を訪問し、文部科学大臣へ「学校教育法の一部を改正する法律案」について意見書を手渡し、意見交換を行った。令和6年度には専門職大学設置基準の改正を求める活動を更に進めていく。

地域社会との連携活動は、本学が地域社会貢献に資する使命から重要な活動であるばかりか、本学の認知度の向上については入学者の確保においても極めて重要である。本学は、

理学療法及び作業療法の専門教員の集団であることから、各教員においては、それぞれの専門性を活かした地域連携活動を実践し、地域住民の心身の健康の維持向上に貢献してきている。令和5年度では、地域住民の健康寿命の延伸、各種スポーツにおける傷害予防活動、高校生の部活動に対するフィジカル及びメンタルサポート活動、子ども及び特別支援児支援活動等を幅広く展開してきた。また岡山県下の県立高校との連携を図るため、岡山県教育委員会との間で、令和3年度に連携協力の協定書を交わしているが、この協定に基づき、今後高大連携を具体的に進めていく計画である。

保護者との連携については、令和6年3月24日に、本学では初めての保護者会を開催した。当日は93名の保護者が参加され、盛会の裡に開催された。保護者からは、大学に対して、教務関係、入試、就職等に関する様々な質問が寄せられたが、それらに対して、大学からは丁寧な回答を行い、保護者と大学との意思の疎通が図られ、また連携が強化され、開催の成果があった。今後は、毎年しかるべき時期に保護者会を開催し、保護者と大学との連携の更なる強化に努めていく。

6つ目の「大学としての品格」については、令和5年度においても、学長が、学生として、更には将来の医療人に必要な「品格」について解説した「学生の品格」と題する冊子（B5版 64ページ）を製作し、全新生に配付した。さらにこの冊子を基に、学長が全新生に対し品格教育を実施した。また、各ゼミをはじめとするいろいろな機会を通じて積極的に品格教育を実践し、その充実を図った。品格教育は、徐々に成果を上げてきていると実感している。

また、令和5年9月1日には、令和4年度の大学及び教職員の活動実績をまとめた「岡山医療専門職大学年報 2022（令和4）年度」を発行し、全国の専門職大学、岡山県下の全大学、全実習先施設及び全教職員（非常勤を含む）に配布した。年報により、本学の1年間の活動実績の詳細が把握され、本学が幅広く理解されることと期待される。2023（令和5）年度版の年報は現在作成中であり、令和6年9月1日の発刊を予定している。

このような令和5年度の活動を総括すると、掲げた目標については、なお充足率の確保に課題を残したが、この課題を除いた他の目標については、ほぼ達成できたと思われる。

ビジョンとして掲げた内容についても、前述の目標の達成状況からは、大学の基盤づくりはほぼできたと思われ、国家試験の合格率や就職率（後述）及び過去4年間の本学の教育課程の実践を鑑みると、ディプロマ・ポリシーを満たすワンランク上の人材の育成はできたのではないかと考えられ、中国地方唯一の専門職大学としての責務は果たせたのではないかと考えられる。一方では、充足率の未達成及びコロナ禍の影響による地域との連携については、なお課題として残すことになり、今後の対応が求められることになった。

2) 具体的な大学運営

具体的な大学運営としては、令和5年度の入学式は、令和5年5月8日のコロナ対策の従来の感染症法の2類から5類への移行見込みにより、それまでの来賓や保護者等の大幅な入場制限を緩和し、保護者の参加を1名に限り認めて、4月3日に執り行われた。一方、授業の遂行においては、前述のコロナの感染症法上の取り扱いが5類へ移行されたことにより、本学園においては、令和2年以来、組織横断的に続けられてきた各種コロナ対策は大幅に緩和された。本学においても、本学園の対策の変更を受け、新たなコロナ対策を制

定し、それに則り対策を講じることとした。令和5年度は、年間を通してほぼ正常な形態で授業を遂行することができた。卒業式は、令和6年3月15日に、保護者の参加を1名に限り認めて行われ、本学にとっての初めての卒業生となる第1期生を送り出した。

令和5年度は、第1期生が卒業を迎えることになり、卒業に向けての様々な新たな教育課程への取り組みが行われ、本学が掲げるディプロマ・ポリシーを満たす学生を社会に送り出すべく、全教職員で取り組んだ。

臨地実務実習については、各学科においては、これまでコロナ禍により実施できなかった学外施設での1年生の見学実習を、令和6年2月19日から3月2日の内5日間、学外施設において実施した。3年生前期には、評価実習を、理学療法学科及び作業療法学科では令和5年7月31日から20日間、実施した。総合実習Ⅰについては、3年生後期に、理学療法学科では令和6年1月9日から45日間、作業療法学科では令和6年1月9日から50日間、実施した。総合実習Ⅱは、4年生前期に、理学療法学科では令和5年7月18日から45日間、作業療法学科では7月18日から50日間、実施した。いずれも学外施設で実施できた。なお、評価実習の前には医療面接試験、総合実習Ⅰの前にはPre OSCE、総合実習Ⅱの終了後にはPost OSCEを実施し、実習前と実習後の評価を行った。実習にあたっては、各実習施設との連携を密にして、実習の質の担保に努めた。年間を通じて、若干のコロナの影響はあったが、ほぼ順調に実習は遂行された。

4年生については、本学では初めての教育課程となる卒業研究と卒業論文の作成が実施された。卒業研究では、各々は、療法士の視点に立った適切なテーマを設定し、担当教員の指導の下、滞りなく研究を遂行し、成果を上げた。10月25日には、研究発表会が開催された。13研究が、各々の研究成果を全教員と全4年生及び一部他学年の学生に披露された。優秀研究には学長賞が授与された（理学療法学科2研究、作業療法学科1研究）。全ての研究成果は「2023年度卒業論文集」としてまとめられ発刊された。

国家試験（後述）も、本学での初めての経験となった。令和2年には全学的な「国家試験対策委員会」を設置し、1年生から国家試験に向けての対策を講じる体制を構築していた。この委員会を中心として、各教員の個別指導、頻回の学内模擬試験の実施、学外模擬試験の受験等、きめ細かい対策がとられてきた結果、国家試験では、理学療法学科が100%、作業療法学科が87.5%の合格率であった。この結果は、全専門職大学中、両学科共に最も高い合格率であった。なお、就職希望者の就職率は、両学科共に100%であった。

3) 文部科学省及びリハビリテーション教育評価機構よりの調査

令和5年度には、開学後初めてとなる文部科学省による学年進行期の終了を受けての「設置計画履行状況等面接・実地調査」（以下、前者）を10月12日に、「寄附行為と財務状況等の実地調査」（以下、後者）を11月22日に受審した。学年進行期における本学の教学関係及び大学運営に関する全ての領域において、設置時の計画が順調に履行されているか否かについて、厳格な調査が行われた。受審時には、定員の未充足（特に作業療法学科）に対する指摘が主であり、また就職率の見通しの甘さやその他若干の指摘事項があったが、教職員及び学生並びに実習施設関係者の尽力により、全体としては一定の評価が得られた。なお、就職希望者の就職率については、両学科とも100%であったことを付記しておく。

令和6年3月末には、文部科学省より、各々の調査結果の報告書が公表されたが、本学では、作業療法学科の充足率が0.36倍であったことから、特に前者の中で、充足率の未達成について厳しく指摘された。令和6年度には、教育内容の更なる充実を図りつつ、学生確保に向けた取組を確実に実施するとともに、長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、充足率の達成に向けたより効果的な対策を取り、令和6年度から変更する入学定員の充足に努めていく。後者では、運営体制に関する若干の指摘も受けた。令和6年度には、指摘された事項については、逐次改善していく必要があるが、前述のように、特に作業療法学科の充足率を達成することが最重要課題である。

さらに、5年に1回実施される「リハビリテーション教育評価機構」からの実地調査を、11月9日に理学療法学科が、12月4日に作業療法学科が受審した。受審の結果についての報告書では、理学療法学科は、「少人数制、実習科目の2名体制など学修効果を高められるような体制づくりがされている」で適合(A)の評価を受け、作業療法学科は、「実習の質向上の為専門技能プログラムを実施している」で適合(S)の評価を受けた。両学科共に、高い評価によりリハビリテーション教育の養成施設として認定された。

更に令和6年度には、自己点検・評価報告書を基に、一般社団法人専門職高等教育質保証機構の分野別認証評価を受審する予定である。

II 事業報告

1. 教育領域

令和5年度は、開学後の4年間のいわゆる学年進行期の最終年となり、教育領域においては、前述のように、初めての課程が複数実施された。それらの主な課程は、臨地実務実習と卒業研究の実践と卒業論文の作成であった。前者においては、それまで続いたコロナの影響がほぼ無くなり、1年生の見学実習、3年前期の評価実習、3年後期の総合実習Ⅰ、4年前期の総合実習Ⅱの全ての実習が、外部施設で予定通りに遂行された。本学が掲げる高度な実践力の涵養を目的とした「専門技能錬成プログラム」が、令和5年度において完成したことになる。今後は、この教育課程が引き継がれていくことになる。後者においては、前述したように、初めての経験であったが、各々の研究はいずれも質の高い内容であり、卒業研究発表会において内容が紹介され、それらをまとめて「卒業論文集」として発刊することができた。

これらの実践により、4年生においては、本学が求めるディプロマ・ポリシーを十分に満たすレベルの能力が身に付いたと判断された。

(1) 教育内容改革

令和5年度の教育課程においては、これまでの1年生の見学実習、3年生の評価実習と総合実習Ⅰに、新たに4年生の総合実習Ⅱが加わり、これらの臨地実務実習の全てが同時並行的に実践されるようになった。まさに、本学の教育の柱である「理論と実践を架橋する教育」の実践が実質的に完成期に入ったと言える。実習の実践においては、実習施設の実習指導者と本学教員合同の「臨地実務実習指導者連絡会議」を実習前に開催し、また実習中は実習担当者と本学教員との連携を密にすることにより、実習先施設との密接な連携を保ちながら、絶えず学生の実習成果や課題について把握し、これらの実習を滞りなく終

えることができた。なお、評価実習前には医療面接試験を、総合実習 I の前には Pre OSCE を、総合実習 II の終了後には Post OSCE を実施したが、Post OSCE は初めての実践であった。

令和 5 年度には、一連の卒業研究と卒業論文の作成が実践されたが、これらについては前述したのでここでは省略する。

令和 5 年度には、本学の教育課程の特徴である「展開科目」の集大成ともいえる「岡山経営者論」が、4 年生を対象に開講された。岡山県を代表する各領域の著名な経営者やイノベーターを講師として招聘し、新サービスの提供、起業、NPO、新規事業展開、海外事業展開、地域創生（地域活性化）等について講演を頂き、起業・経営者の観点から、サービスの創造に欠かせない思考と創造力、他分野の視点やアイデアを形にする能力、サービスを革新し創造する能力、新たな領域で活躍できる能力等が獲得された。

(2) カリキュラム整備

令和 5 年度は、学年進行期の最終年となるため、その後に向けた、より質の高い充実した教育課程への改革に向けて、教育課程連携協議会より、理論科目と実習科目の配置を変更して教育効果を上げてはどうかとの意見が出たため、それらを踏まえて、学生に理論と実践を架橋しながら学修効果を上げることで教育内容の充実を図るために次の通り変更し、令和 6 年度から実施する。配当年次を変更する理由は、これまで以上に、理論と実践を架橋する教育の効果を高めるためである。

<基礎科目>理学療法学科・作業療法学科

科目	変更後	変更前
職業人の倫理と道徳論	3 後	1 後

<職業専門科目>理学療法学科

科目	変更後	変更前
理学療法管理学概論	4 後	3 前
理学療法評価学実習 I	2 前	2 後
運動療法	2 前	1 後
運動療法実習 I	2 後	2 前
運動療法実習 II	3 前	2 後
理学療法治療学Ⅲ	2 前	2 後
理学療法治療学実習 I	2 後	2 前
生涯スポーツ実習	3 後	3 前

<職業専門科目>作業療法学科

科目	変更後	変更前
作業療法管理学概論	4後	3後
作業療法評価学実習Ⅲ	3前	2後
基礎作業療法治療学実習Ⅰ	2後	3前
基礎作業療法治療学実習Ⅱ	2後	3前
身体障害作業療法学Ⅰ	1後	2前
身体障害作業療法学Ⅲ	2後	3前
身体障害作業療法学Ⅳ	2後	3前
精神障害作業療法学	3前	2後
生活環境学	2前	2後
地域作業療法学	2前	3後
予防作業療法学	3前	3後

教育課程連携協議会より、選択科目として設定していた「理学療法セミナーⅡ」並びに「作業療法セミナーⅡ」を必修科目に変更し、卒業単位を変更することでより一層学生の学修効果が高まると意見があり、審議した結果、令和6年度より教育課程を変更した。

(3) 国家試験サポート

本学では学科横断的に、開学後間もなく国家試験対策委員会を組織し、この委員会が中心となり、組織的に、より効果的な国家試験対策を検討し、国家試験対策指導に反映し、1年生から模擬試験を実施するなど、学生に対して国家試験への意識づけを図ってきた。「スマコク for PT / OT」を導入しアプリケーションを利用した国家試験対策を1年生から実施した。2年生に対しては、複数回の学内模擬試験を実施し、個別指導や補講を行い、さらに医歯薬3科目模試を受験するよう指導し、国家試験に対する意識づけを強化している。令和5年度は、第1期生が国家試験を受験することになることから、これまでに加えて、頻回の学内試験や学外模擬試験、過去問への対応、各教員による課外授業や個別指導、成績不良者に対する個別指導等、一層内容の濃い国家試験対策をとってきた。その結果、国家試験合格率は、理学療法学科が100%、作業療法学科は87.5%であった。合格率は、全国の専門職大学の中では、両学科共に最高の結果であった。

なお、就職率に関しては、就職希望者の就職率は、両学科共に100%であった。

(4) 教育サポート

・実践英語レッスン

ベルリッツランゲージセンター岡山と契約し、ネイティブ講師による英会話レッスンを週に1回、前期で実施した。

(5) 行事・交流関連 (学内・学外)

・新入生歓迎会

新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、学科単位で新入生歓迎会を実施し、教員と学生の交流を図った。

・七夕行事 (7月)

学園に設置した笹に、願い事を書いた短冊を飾り、七夕を祝った。

・節分行事 (4校合同豆まき大会) (2月)

三密を避けるために恒例の豆まきは実施しなかった。

・防災避難訓練

4月4日に避難経路確認、5月29日に地震を想定した避難訓練、11月6日に火災を想定した避難訓練をそれぞれ実施した。

・学園祭 (10月28日、3校合同で開催)

大学が開学して初めて、一般公開で開催し、非常に盛況であった。

2. 研究領域

令和5年度の科研費採択状況は、若手研究1件であった。

研究種目 若手研究

研究課題名	研究代表者			2023年度 直接経費 ※単位千円
	所属	職	氏名	
複合現実技術を用いた歩行時二重課題による注意機能と転倒リスク評価法の開発	健康科学部	助教	小島一範	1,300

(2) その他の研究費獲得状況

助成団体：公益財団法人ウエスコ学術振興財団 研究活動費助成事業

研究課題名：爪郭部毛細血管形態を指標とした簡易的な筋質評価法の開発

研究代表者：田中雅侑 (健康科学部理学療法学科 助教)

助成金額：500千円

3. 教育・研究活動の質の保証と向上

令和5年度も引き続いて、専任教員の専門知識・指導力向上を目的とし、学内外での研修に積極的に参加し自己研鑽を行った。また専任教員の授業能力や教育効果を高めるためのFD研修(勉強会)を、FD委員会を中心に開催した。勉強会には、全教員が集まり、各教員間の教育に関する実践方法や研究紹介等を行い、教育の質の向上や研究内容の共有を図った。この勉強会は、各教員の教育に対する姿勢や考え方、実践方法等や研究に関する知識や情報の共有を図ることができ、連携を強めることができた。また、勉強会で得られた知識を教育現場へフィードバックすることにより教育の質を高めることができた。令和4年度からは、臨地実務実習の開始により、全教員の参加が困難となり、毎週の開催が不可能となったため、原則として月1回の開催としたが、令和5年度は必要時の開催とした。さらに、学術雑誌「岡山健康科学」の発行をはじめとし、国内外の学会発表、国内外の学

術雑誌への投稿等、積極的に研究活動にも精進した。職員の資質向上のために SD 活動の強化にも努め、事務専門職としての能力を高めた。

前期・後期の講義最終日に学生による授業評価アンケートを実施しその結果を講義担当者にフィードバックし、さらに学長の評価を受け、講義内容や構成の改善に役立てた。授業評価アンケート結果は、大学ホームページで公表している。

(1) 大学FD研修会（勉強会）の活動実績一覧

日程	時間	テーマ	講師	参加者
2023.05.10	13:00-14:00	研究の実際-「テーマ設定と研究方法」講義	学部長 小野 俊朗 教授	20名
2023.06.14	13:00-14:00	自己紹介 「これまでの活動について」	作業療法学科 山田 隆人 准教授	12名
2023.11.8	13:00-14:00	他校における医療面接試験・OSCEの取組紹介	理学療法学科 田中 雅侑 助教	15名
2023.11.29	14:00-15:10	臨床実習指導者会議 参加型臨床実習について	増原クリニック 副院長 中川法一	全員
2024.01.10	13:00-14:00	年頭所感 学年進行期の検証を行い、次のステップへ円滑に移行し、その後の発展に繋げる	学長 浅利 正二 教授	21名
2024.2.14	13:00-14:00	FD委員会からのご案内（授業参観）授業の取り組み（実践報告）	作業療法学科 渡部 悠司 助教	17名

(2) SD 研修

日程	時間	テーマ	講師	参加者数
8月30日	15:00~16:30	ハラスメントセミナー	弁護士法人備前法律事務所 所長・弁護士 佐藤弘一氏	14名
10月10日	13:00~14:00	障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー	放送大学 教授 川島 聡氏、筑波大学 准教授 佐々木 銀河氏、他	14名
3月18日	13:00~15:00	自己点検評価研修会	一般社団法人 専門職高等教育質保証機構 代表理事 川口 昭彦氏	9名

4. 学生支援

(1) 経済支援・奨学金制度

岡山医療専門職大学では優秀な学生を確保することを目的として、次の奨学金制度を設け、本山学園奨学基金より支弁している。

・本山学園特待生制度

総合型選抜、学校推薦型選抜（指定校制推薦・公募制推薦）合格者、一般選抜（1次）受験者に対し、特待生チャレンジ試験を実施し、優秀な成績を収めた者を特待生として授業料を免除した。

ランク S 146 万円、ランク A 73 万円、ランク B30 万円支給

※学校推薦型選抜（指定校制推薦・公募制推薦）合格者、一般選抜（1次）受験者はランク B のみ対象とする。

・成績優秀者奨学金

前年度の成績優秀者（年間成績上位者）に対し GPA により奨学生を選考し、支給する。

ランク A100 万円、ランク B50 万円、ランク C30 万円

・岡山一人暮らし新生活スタートアップ応援制度（新設）

岡山県外及び岡山県北部から本学に入学した学生が、安心して勉学に取り組むことができる環境を確保するため、岡山市での新生活のスタートアップを応援する奨学金制度を新設し、2023 年度生に給付した。

月額2万円迄、1年間最大24万円

・親族割引制度

親族が本学、岡山医療技術専門学校、インターナショナル岡山歯科衛生専門学校、西日本調理製菓専門学校（2004年3月以降）を卒業または在籍・同時入学の場合、2人目から授業料を免除した。

（2）同窓会活動

岡山医療専門職大学同窓会を組織し、在学生への支援活動ならびに卒業後の支援を行っていく。

（3）学友会

本学では、本学の全学生で構成される学友会により、学生相互の親睦の向上ならびに福利厚生に関する運営を行った。令和3年度には、学友会会則を定め、この会則に則り運営が行われている。その後、学友会活動は次第に活性化してきて、現在は以下に示す9サークルが結成され活動している。

令和5年度には、令和4年度から引き続いて、運動系サークル5団体（フットサル、バレーボール、バドミントン、ダンス、アドベンチャー）と文科系サークル3団体（エレクトーン・ピアノ、お茶、ウォーキートーキー）の計8団体が活動している。さらに、令和5年度に、文科系サークル1団体（マリン）が活動を開始し、計9団体となった。学友会活動は次第に活発となってきており、順調な経過をとってきていると思われる。

（4）学生サポート

【オフィスアワー】

学生と教員とのコミュニケーションを充実させるため、各教員においては週2回のオフィスアワーを定め、学生との密な連携を図っている。

【学生相談室】

安心して学生生活を送れるように学内に学生相談室を開設し、学生からの相談を受けた。また臨床心理士による相談日を毎週水曜日に設け、精神的ケアの充実を図った。

【朝食サービス】

学生が規則正しく栄養バランスの取れた食事を280円で提供し、脳の活動と集中力を向上させ、学習意欲や能力を底上げした。

5. 施設・設備の充実

（1）学内無線LANシステムの構築

本学では既に新館全フロア、本館の一部フロアに無線LANを整備していたが、学生への最適な教育と研究環境を整備するために、新たに本館に無線LAN工事を行い、本館・新館共に全館Wi-Fi対応とした。

（2）教育の情報化推進への取組

授業の遠隔配信等を目的とし、ZoomとMoodleを整備した。令和4年度までの見学実習

は、コロナ禍により学外施設での実習ができなかったため、一部遠隔授業となったが、本整備により、円滑に実施することができた。学内の授業においても、本整備により、授業の効率化と質向上が図れるようになった。

(3) 換気・空調システムの完備

感染症対策として、本館講義室、実習室、体育館等に換気性能に優れた空気清浄機を設置するとともに、空調用抗菌フィルターを付け、クリーンな環境で安心して学生生活が送れるように配慮している。

6. 社会貢献活動

(1) ボランティア・地域貢献事業

大学コンソーシアム岡山のエコナイトに参画し、「ライトダウン in 岡山医療専門職大学」を実施すると共に岡山奉還町商店街イベントに教員1名、ゼミ学生6名が参加し、「体力測定できます！～エコな運動でロコモ予防～」をテーマとして体力測定とロコモ予防運動を行った。大学コンソーシアム岡山が主催する「吉備創生カレッジ」には2名の講師を派遣した。各教員においては、それぞれの専門性を活かした地域連携活動を行っている(前述)。

(2) 講師派遣

外部団体からの依頼により教員を派遣した。

7. 健康管理

学生及び教職員の健康管理のため以下のとおり実施した。

【健康診断】

- ・教職員：5月17日(水) 9:00～12:00
- ・学 生：(大学1年生) 4月7日(金) 13:00～16:30
(大学2年生) 4月7日(金) 9:00～12:00
(大学3年生) 4月12日(水) 13:30～16:30
(大学4年生) 6月2日(金) 16:00～17:00

【B型肝炎予防接種】

- ・前検査：4月7日(金) 13:00～16:30
- ・1回目接種：5月31日(水) 10:00～12:00
- ・2回目接種：6月28日(水) 10:00～12:00
- ・3回目接種：10月25日(水) 12:30～14:30
- ・後検査：12月6日(水) 12:30～14:30

【四種抗体検査・予防接種】

- ・前検査：4月7日(金) 13:00～16:30
- ・接種期間：2023年5月～2024年8月までの予定 ※学生により、接種回数・時期が異なる。
- ・後検査：10月下旬の予定 ※対象者のみ

【インフルエンザ予防接種】

・学内実施：11月1日（水）9:30～11:30 ※希望者のみ

8. 合議体活動

（1）運営評議会

学長、学部長、学科長、大学事務局長で構成され、月2回開催し、運営評議会の運営に関する事項、学部・学科運営に関する事項、教務に関する事項、学生指導に関する事項、学生の身分に関する事項、各種委員会に関する事項、教職員に関する事項、教学関連規程（学則を含む）の改廃に関する事項、教育課程連携協議会に関する事項等について審議した。

（2）教授会

学長、専任の教授、准教授、講師、助教で構成され、月1回開催し、教授会の運営に関する事項、教育課程の編成、変更、実施および講義・実習担当に関する事項、各種委員会に関する事項、学則に関する事項、学生の入学、転入学、編入学、科目履修、聴講、退学、休学、進級、留学、再入学、復学、転籍、除籍および卒業に関する事項、学生の試験に関する事項、学生の賞罰に関する事項、学生活動、学生生活等に関する事項、本規程の改廃に関する事項、その他教学運営上重要な事項等について審議した。

（3）学科会議

各学科学科長、全専任教員で構成され、月2回開催し、学科運営に関する事項、学科学生の教育に関する事項、学科教職員に関する事項等について審議した。

（4）教育課程連携協議会

学部長、各学科長、各学科教務委員1名、学長が必要と認めた者1名、事務局長、業界側委員4～6名以上で構成され、令和5年11月7日（火）、令和6年3月26日（火）の年2回開催した。学年進行が進むにつれて、本協議会での意見は活発化してきており、それを反映した教育課程の改革に向けて取り組んできている。

（5）入学者選考委員会

学部長、専任教員4名、大学事務局担当者1名で構成され、必要に応じて開催した。入学者の選考・選抜に関する諸施策の立案・実施、入学者の選考に関する事項、入学者選抜試験の内容・配点・採点基準等に関する事項等について立案した。

（6）各種委員会

本学の運営を円滑に行うために必要な各種委員会を設置している。各種委員会は、専任教員によって構成される。各委員会で、教務内、学生支援、広報関連等の業務が円滑に進むよう調整される。会議は原則として、水曜日の会議日に定期的で開催される。

（設置委員会）

教務委員会、実習委員会、倫理審査委員会、大学紀要委員会、大学FD委員会、大学SD

委員会、大学自己点検・評価委員会、広報委員会、学生委員会、国家試験対策委員会、大学コンソーシアム岡山（代表者会議、運営委員会、社会人教育委員会、就職支援委員会、共同教育委員会、地域貢献委員会、障がい学生支援委員会 各々年2回開催）

（7）学園各種委員会

本学園の設置校全体として、連携して業務を円滑に遂行するために必要な各種委員会を設置している。各種委員会は、各校を代表とする専任教員によって構成される。各委員会の都合により、定期的な会議が開催される。

（設置委員会）

学園連絡会議、学園FD委員会、学校法人本山学園自己点検・評価委員会、防火防災実務委員会、安全衛生管理委員会、学校法人本山学園ハラスメント委員会

9. 広報活動

「オープンキャンパスの参加者数増加」と「オープンキャンパスの満足度向上(出願者増加)」の2点を最重要課題として、定員充足を目標として以下の取組を行った。本学のターゲット層に効果的なSNSを活用し、入学希望者一人ひとりにきめ細やかな広報活動を重点的に行った。

（1）オープンキャンパス・大学説明会

オープンキャンパスを8回、個別相談会を4回、放課後オープンキャンパスを6回、年間18回実施した。参加者数は昨年度より減少した。~~ただし、~~複数回参加した高校生数(延べ人数)も減少した。

・オープンキャンパス参加者数：実人数201名(9名減)

（オープンキャンパス開催日）

【体験授業有り】

4月23日(日)、5月14日(日)、6月17日(土)、7月22日(土)、8月20日(日)
9月9日(土)、12月16日(土)、3月24日(日)

【個別相談会】

6月18日(日)、7月29日(土)、8月5日(土)、11月3日(金)

【放課後オープンキャンパス】

6月14日(水)、8月9日(水)、10月4日(水)、11月1日(水)、12月6日(水)、
1月24日(水)

（2）高校訪問

岡山県内、香川県、高知県、徳島県、愛媛県、鳥取県、島根県、広島県、兵庫県、山口県の高等学校・中等教育学校に対して680校を訪問した。訪問時期に応じて、パンフレットの提供・各入学試験への出願依頼・各高等学校における進路状況調査を伺い、出願の促進を図った。本年度も高校3年生の生徒数減少や就職希望者増加といった厳しい状況下での訪問であったが、高等学校教員との良好な関係構築に努めた結果、高校教員からの紹介も一定の効果が上がった。岡山県内の出願者が大幅に減少したが、県外からの出願者は概ね横ばいとなった。

(3) 進学ガイダンス参加

岡山県・香川県・広島県・高知県・島根県・兵庫県・愛媛県のガイダンスに 31 会場参加した。他大学や他分野と比較検討している高校生が多く、限られた時間の中でも本学の魅力を最大限伝え、ガイダンス参加者のニーズにあわせた資料と説明内容に気を配ることでオープンキャンパスへ誘導することができた。

校内ガイダンスにおいては岡山県内外の高校内で開催される校内ガイダンスへ 50 会場に参加した。校内ガイダンスのメリットとして、高校生と 20 分～1 時間話をすることができるため、信頼関係を構築することができ、オープンキャンパスへの動員に繋がった。

(4) 大学説明会・大学見学

個別相談会を随時実施した。2 名が参加し、1 名が出願に至った。参加者数は少なかったが、効果は高かったため、次年度以降も継続していく。

(5) ホームページ・SNS を利用した WEB 広報

① ホームページ

効果的な広報ツールとしてホームページに動画を掲載するなどコンテンツを拡充した。アクセス数は大幅に増加し、昨年度よりも 2 倍となった。

過去 4 ヶ年のホームページの訪問者数は、次の通りである。

・令和 5 年度：366,714 件 令和 4 年度：241,634 件 令和 3 年度：108,498 件 令和 2 年度：112,453 件

② ソーシャルネットワーク (SNS)

SNS についても積極的に情報発信を行った。SNS の中で最も効果的だったのは LINE であり、登録者数は 1,365 名(対前年 105.8%)だった。継続的なコミュニケーションが出願誘因に明確な効果を示した。

次に効果的なツールは Instagram で、フォロワー数は現在 478 名(対前年 124.5%)であった。在学生の様子を積極的に公開したことで、フォロワー数を大幅に増やすことに成功し、効果的に情報発信することができた。

(6) 高等学校教員対象説明会の開催

令和 5 年 6 月 27 日に中国四国地方の高等学校教員 5 名を対象とし、対面とライブ配信にて開催し、教育方針、教育内容の説明を行い、理解度を深めるとともに進路指導に活用していただいた。

(7) 大学案内

8 月より制作を開始し、高校生目線に立って分かりやすく、伝わりやすい大学案内となるように表現やレイアウトを変更し 3 月下旬に完成した。

(8) 動画による PR 活動

本学では、在学生のいきいきとした表情を撮影するため動画制作を内製化し、学園祭動画 1 本、在学生インタビュー動画 5 本を製作した。YouTube 総再生回数 4315 回、instagram

総再生回数 10,166 回を超えており、オープンキャンパスやガイダンス等においても効果的に使用することで入学後のイメージをもちやすくすることができた。

TV CM においては岡山県・香川県で OHK、西日本放送、テレビせとうちの 3 局で広告を行った。令和 4 年度新入生アンケートの結果、「本学の CM を見たことがある人」は 62.5%で、岡山県および香川県からの入学者には効果的であった。

(9) 進学媒体(紙・Web)への参画

リクルート、マイナビ、JS コーポレーション、キッズ・コーポレーション、日本ドリコム等が発刊している進学情報誌や各業者が運営する Web 進学サイトに、学校情報を掲載し、広報活動を行った。

(10) DM (ダイレクトメール) の制作、発送・配信

はがき・Eメール等で DM を作成し、本学と接触のあった進学希望者に対して、8 回発送・配信した。内製し、見やすくかつ本学の魅力が最大限伝わるように創意工夫を行った。オープンキャンパスや入試等、送付時期に合わせて内容を変更し、新しい情報を発送・配信するよう努めた。

10. 入学者選抜

令和 5 年度の入学者選抜の実績を元に、入学者選考委員会で選抜方式、日程、内容等を検討し、総合型選抜、学校推薦型選抜(指定校制、公募制)、一般選抜、一般選抜大学入学共通テスト利用方式の 5 つの選抜方式を実施し、成績優秀な人材の確保に努めた。しかし、総合型選抜の志願者数は前年度並みであったが、学校推薦型選抜、一般選抜(理学療法学科)の志願者数が大幅に減少した結果、定員充足には至らなかった。

【入学者選抜】健康科学部 (理学療法学科・作業療法学科)

- ・総合型選抜【専願】(9月～12月計3回)：書類審査・レポート・発表とディスカッション・面接
- ・学校推薦型選抜(指定校制)【専願】(11月計1回)：書類審査・面接
- ・学校推薦型選抜(公募制)(11月～12月計2回)：書類審査・学力試験：小論文・面接
- ・一般選抜(1月～3月計4回)：書類審査・学力試験：国語、英語・面接
- ・一般選抜大学入学共通テスト利用方式(2月～3月計2回)：書類審査・令和6年度大学入学共通テスト得点利用：国語・英語

11. 申請関係

- ・学長変更届
- ・学則変更届
- ・教育課程変更届
- ・教員変更届

12. 特記事項(新型コロナウイルス感染症関連)

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の 2 類から 5 類への移行が、令和 5 年 5 月 8 日

に実施されることを受けて、令和2年より組織横断的に活動してきた本学園の「新型コロナウイルス感染対策委員会」では、それまでの厳しい感染対策を緩和し、基本的な感染対策に絞った新たな感染対策を策定して、令和5年3月末をもって発展的に解散した。5月8日以後の感染対策は、学園共通の新たな感染対策に則り、各校の事情に基づいた対策を各校の責任においてとることになった。大学は、大学としての基本的感染対策を策定し、引き続いて「学生の健康が第一」と「教育の場と質の担保」の基本姿勢の遵守に努めることとした。なお、令和5年度の大学学生のコロナ感染者数は合計32名であり、月平均では2.7人(0~9人/月)であった。